

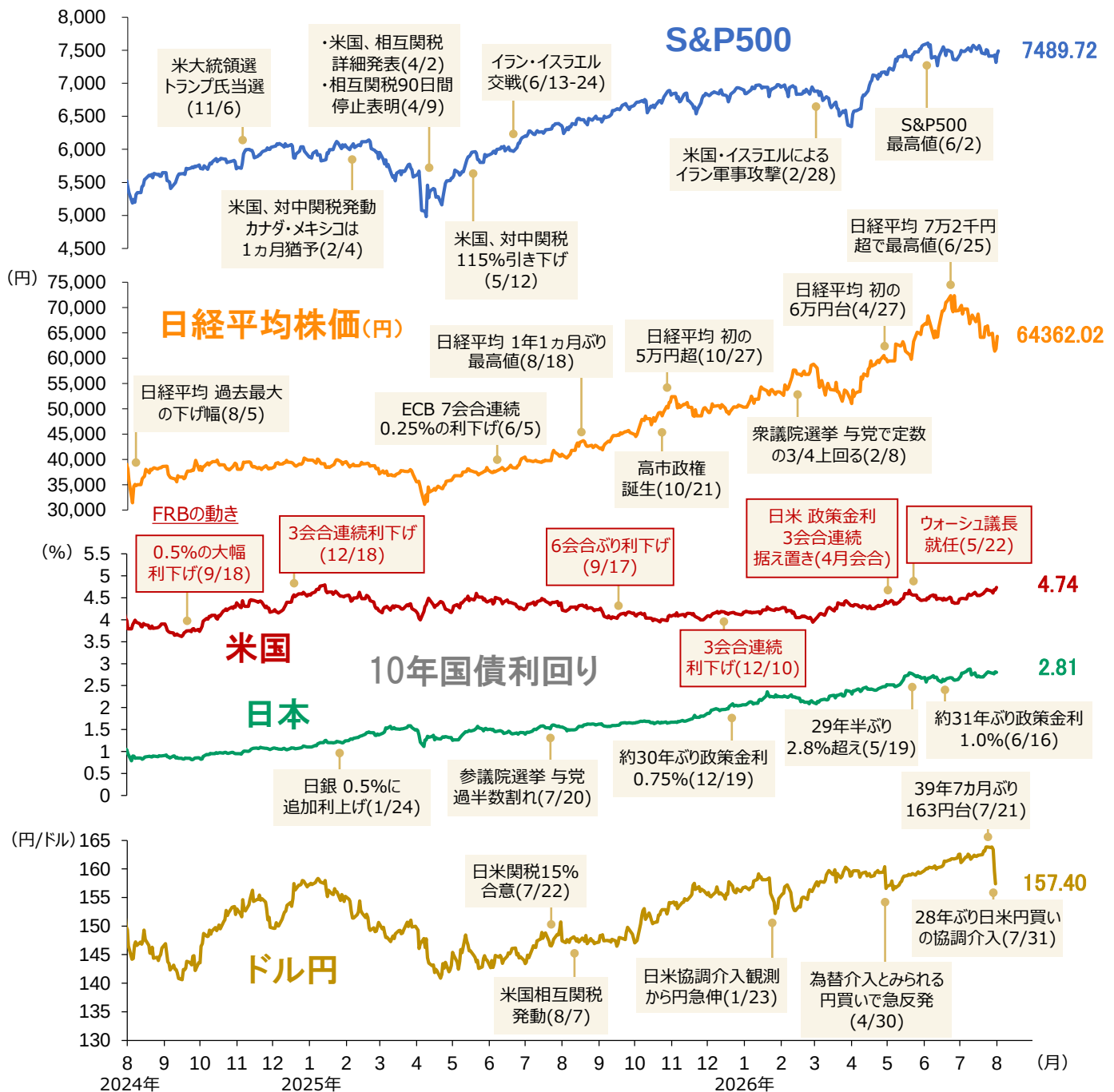


Monthly Guide

2026年
8月号りそなアセットマネジメントの
YouTubeチャンネルで、
最新のマーケット情報を
配信しています！

<2026年7月の主要マーケットの推移>

- ・S&P500：AI・半導体関連株が下落する一方、金融やヘルスケアなど安定成長株が買われ、月間では▲0.1%で終えました。
- ・日経平均株価：半導体関連株の下落が響き4ヵ月ぶりに下落しました。東証株価指数(TOPIX)は小幅上昇で終えました。
- ・米10年国債利回り：利上げ観測の高まりとインフレ懸念から2025年1月以来の高水準となる4.74%まで上昇しました。
- ・ドル円：39年半ぶりに163円台に円安ドル高が進んだ後、月末に為替介入が実施され157円台まで円が急伸しました。



※ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

※グラフ内の数値は直近月末値(終値)

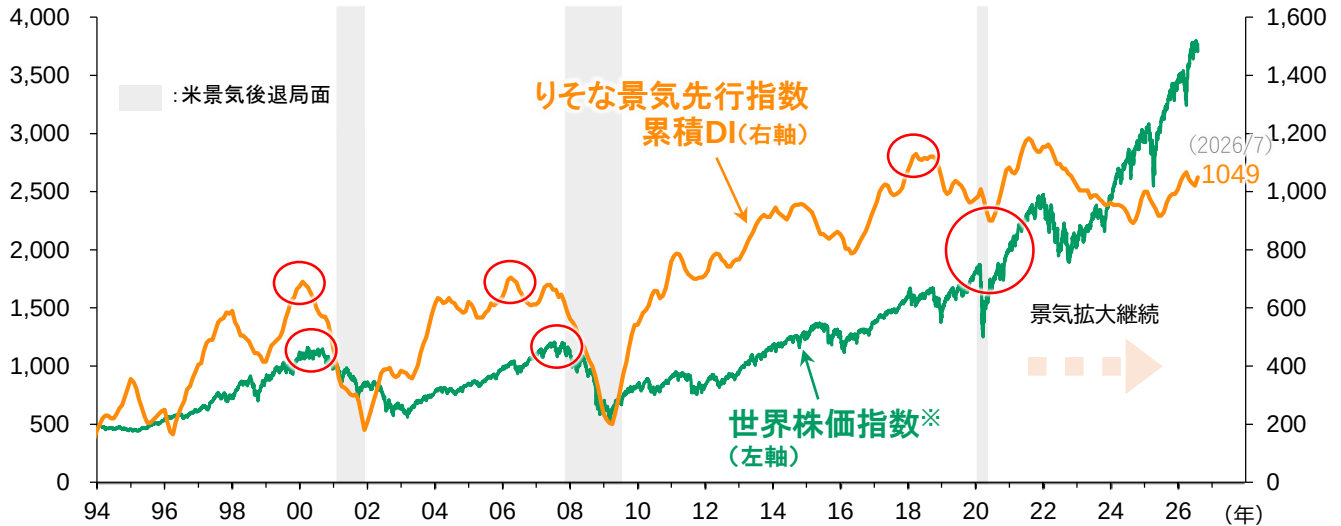
りそなのマーケットビュー

メインシナリオ：世界景気の拡大局面は継続、株式が債券に対し優位な投資環境

サブシナリオ：雇用軟化が続く一方、インフレ再燃懸念で利下げが進まず米国景気が減速

リスクシナリオ：米国が景気後退に陥り、債券が株式に対し優位な展開に

世界景気の先行きは「りそな景気先行指数」で見極めます



※ブルームバーグ、Haver Analyticsの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

りそな景気先行指数とは？

世界景気の転換点をいち早く見極める分析ツールとして、りそなが独自に開発した世界景気の先行指標です。

●景気に対して先行して動くと考えられる国内外の12の指標を選定。それぞれの項目が3ヵ月前と比較して改善を示す指標の割合を算出した指数です。●この指数が50を上回れば（半数以上の系列が改善していれば）景気は拡張局面、50を下回れば後退局面と捉えます。●累積DIは各月のりそな景気先行指数から50を引いた数値を累積したものです（1992年5月＝0）。

● 注目指標 ● 半導体株の行方を占う半導体売上高 ピークアウトの可能性は？

AIデータセンター投資による半導体需要の急拡大を背景に、世界の主要半導体株が急騰しました。半導体セクターの圧倒的な存在感は日経平均株価や米国S&P500指数など主要株価指数の方向性をも決定づける市場の牽引役となっています。しかし、その半導体株も7月に入り調整地合いに転じています。今後の半導体株の行方を占う上で重要な道標となるのが世界の半導体売上高です。半導体売上高の循環的な動き（シリコンサイクル）とSOX指数²⁾は併行して推移しており、足元のSOX指数の調整は、半導体売上のピークアウトを織り込んでいる可能性が高いと言えます。

今後の展開としては、①旺盛な半導体需要が継続、②売上の伸び率は鈍化するが高水準を維持、③半導体市況が明確にピークアウト、の3つが考えられます。どのシナリオへ向かうかは今後発表される半導体売上高の推移を見極めて判断することになります。ただ、世界的なAI関連投資は今後も拡大が見込まれるため、半導体需給が急激に悪化し、それを背景としたSOX指数の大幅下落が続く可能性は低いと考えられます。

世界半導体売上高と半導体株指数



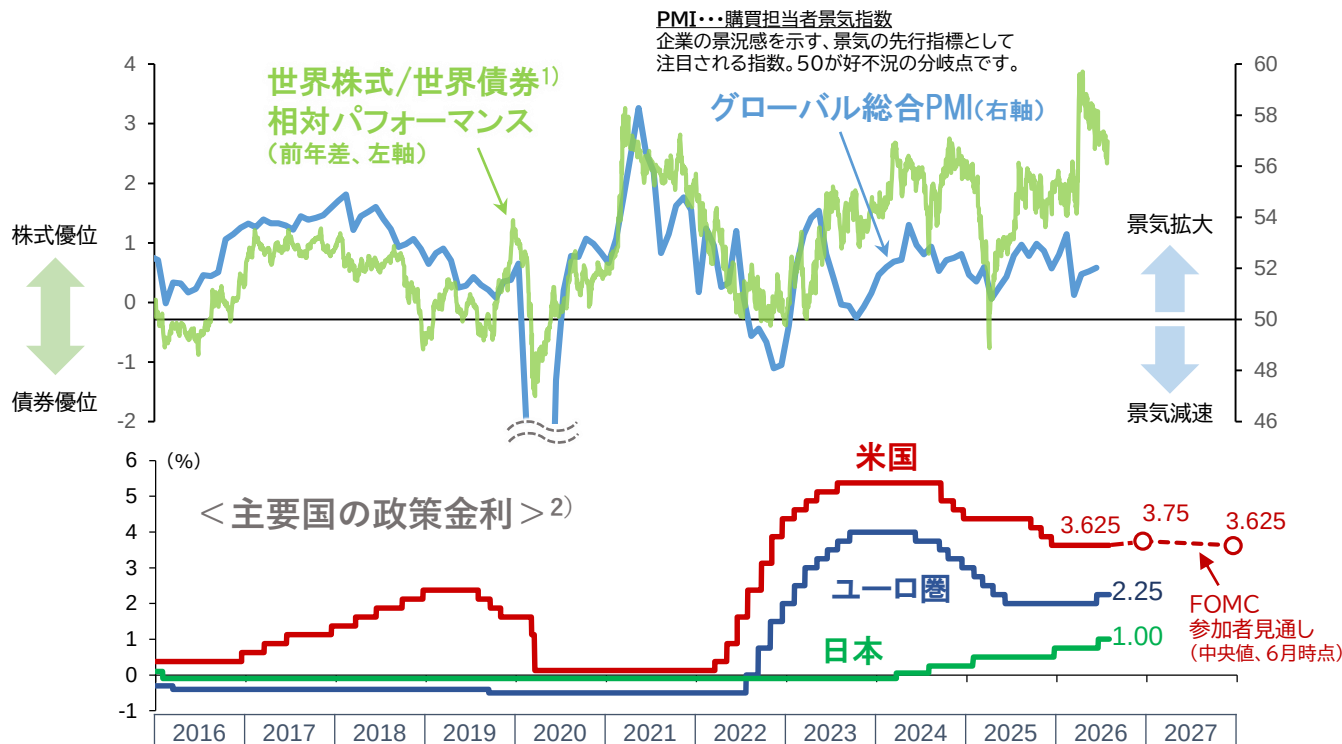
1) 世界半導体市場統計

2) フィラデルフィア半導体株指数。世界の主要半導体株30銘柄で構成される

※ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメント作成

世界景気の拡大と緩和的な金融環境の組み合わせで、株式優勢が続く見通し

- 世界景気の先行指標であるグローバル総合PMIは6月時点で52.0と好・不況判断の分岐点となる50を41ヵ月連続で上回り、世界景気の拡大継続を示唆しています。一方、金融環境は米国が政策金利を据え置き、緩和的な状態が続くことから、株式などの成長資産が選好されやすい投資環境が維持される見通しです。
- 中東情勢を巡る見通しの不確実性から、各市場のボラティリティ(価格変動率)が高まる局面が今後も予想される中、値動きの異なる資産・地域・通貨などへの分散投資を進めることが長期的に安定した運用成果につながると考えます。



1) 世界株式：MSCI-World 指数（配当込み、現地通貨ベース）、世界債券：FTSE世界国債インデックス（現地通貨ベース）
2) 米国：FFレート誘導金利(中央値)、ユーロ圏：中銀預金ファシリティ金利、日本：2024年3月19日までは日銀当座預金金利（マイナス金利は日銀当座預金の一部に適用）、2024年3月21日以降は無担保コール翌日物金利
※FRB、ブルームバーグ、Haver Analyticsの公表データ等に基づき、リそなアセットマネジメントが作成

金融環境

● 今後の注目点 ●



FRBは7月FOMCで政策金利を据え置きました。2%の物価目標達成への強い意思を示す一方、今後の政策運営に関する具体的な示唆は限定的でした。

長期の期待インフレ率が低位安定を続けていることから、FRBは政策金利の現状維持を継続すると予想されます。



ECBは7月理事会で政策金利を据え置きました。エネルギーショックの影響はいまだ完全に表れていないとして、物価上振れリスクに警戒を示しました。

中東情勢の悪化によるエネルギー価格の高止まりが続いており、早ければ9月にも追加利上げが実施されると予想します。



日銀は7月会合で政策金利を据え置きました。展望レポートでは、基調的な物価上昇率が2%の物価目標を上振れて推移していくリスクが強調されました。

10月の追加利上げが有力とみますが、円安が一段と進行する場合は、9月に利上げが前倒しされる可能性にも留意が必要です。

● 8月の重要イベント ●

7日 米国 雇用統計

11日 豪州 準備銀行理事会

17日 日本 4-6月期GDP速報

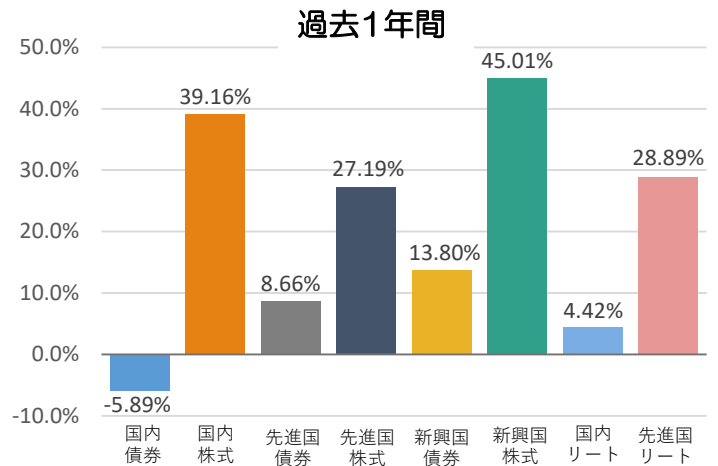
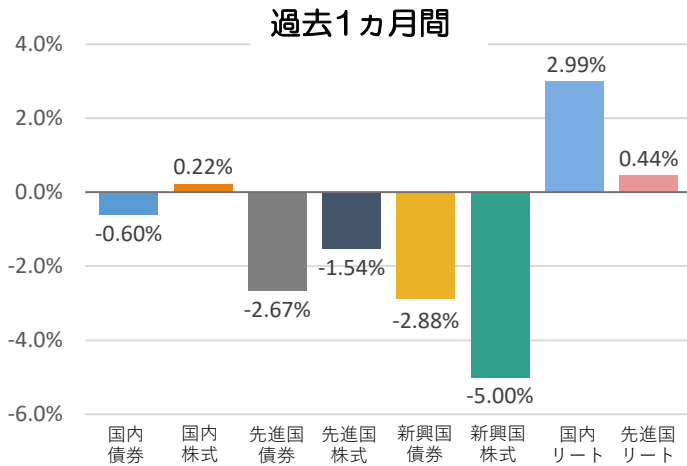
27日-29日 カンザスシティ連銀
年次経済シンポジウム
(ジャクソンホール会議)

31日・9月1日 G20財務大臣・中央銀行総裁会議

7月末基準

各資産別 月間騰落率と振り返り (円換算ベース)

- ◆AI(人工知能)・半導体関連株から割安株や出遅れ株に資金がシフトし、国内株は横ばい、先進国・新興国株は下落しました。
 ◆中東紛争長期化によるインフレ再燃懸念から内外債券は下落、株式市場からの資金流入で内外リートは上昇しました。



※ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券：NOMURA-BPI総合、国内株式：東証株価指数(TOPIX、配当込み)、先進国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)、先進国株式：MSCI-KOKUSAI指数(配当込み、円換算ベース)、新興国債券：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット指数(配当込み、円換算ベース)、国内リート：東証REIT指数(配当込み)、先進国リート：S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)

国内債券

10年国債利回りは月間で12bp上昇しました。財政拡張や円安・原油高によるインフレ上振れ懸念から売りが先行しました。日銀は、月末の会合で政策金利を据え置く一方、物価上振れリスクを強調し早期利上げの可能性を示唆しました。ドル円は、為替介入を受けて157円台まで円高が進みました。

国内株式

世界的にAI(人工知能)・半導体関連株の調整が続き、日経平均株価は8%超下落する一方、東証株価指数(TOPIX)は月初に最高値を更新し、月間ではプラスで終えました。業種別では、非鉄金属や電気機器などのAI関連業種が下落する一方、出遅れ感のある輸送用機器などが上昇し相場全体を支えました。

先進国債券

米10年国債利回りは、月間で27bp上昇しました。月末のFOMCでは政策金利が据え置かれました。インフレ再燃への警戒から、米30年債利回りは2007年以来の高水準となる5.2%台に上昇しました。欧州では、エネルギー価格の上昇が嫌気され、英・独・仏10年国債利回りは揃って上昇しました。

先進国株式

米国では、S&P500・ナスダック総合指数が2ヵ月連続で下落する一方、NYダウは4ヵ月連続で上昇しました。業種別では、情報技術がマイナスとなる一方、原油高の恩恵を受けるエネルギーや、金融・ヘルスケアなどがプラスとなりました。欧州では、英・独・仏の主要株価指数は揃って上昇しました。

新興国債券

新興国債券は下落しました。市場予想に反し利上げを見送った南アフリカ、中銀総裁が突如辞任し政策の先行き不透明感が高まったインドネシアは通貨安が加速し下落しました。

新興国株式

新興国株式は下落しました。半導体関連株の比重が高い韓国・台湾が大幅に下落した一方、中国はAI開発の将来性への期待からテクノロジー関連株を中心に上昇しました。

国内リート

東証リート指数は上昇しました。出遅れ感や相対的に高い分配金利回りを見直す買いが入りました。業種別では、オフィスが空室率低下などの市況回復が評価され上昇しました。

先進国リート

先進国リートは上昇しました。時価総額比重で8割近くを占める米国が横ばいとなる一方、韓国・香港・英国が指数を牽引しました。業種別では、オフィスや物流施設が上昇しました。

<当資料に関するご注意事項>

○当資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。○当資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示されている当社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見通し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保証するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。○当資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。

<ファンドの設定・運用> ■りそなアセットマネジメント 商号等/りそなアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2858号 加入協会/一般社団法人資産運用業協会